



日本遺産

みとくさん みささ
三徳山 三朝温泉

ろっこんしょうじょう ろっかんちゆ

「六根清浄と六感治癒の地」(鳥取県)

素材研究
(国内)

三度朝を迎えると元気になる
修験道と湯治場がひとつになった癒しの地

鳥取県のほぼ中央部に位置する三朝町は、開山1300年を迎えた山岳修験の霊場・三徳山と、開湯850年の歴史を持つ三朝温泉で知られます。長い歴史のなかで両者は結び付き、中国・四国地方屈指の観光地となり、2015年に日本遺産に認定されました。



国宝、三仏寺、奥院、投入堂。入山は2人以上でと決められています



レトロなムードの温泉街



温泉街には足湯も



桜の季節も見事です

六根清浄と六感治癒
世界屈指のラジウム温泉

三朝町の日本遺産は三徳山と三朝温泉の2つを軸に構成され、両者を結びつけるキーワードが「六根清浄と六感治癒」です。三徳山を示す「六根清浄」は「眼・耳・鼻舌身意」を清めるといふ仏教用語。温泉を表す「六感治癒」は「観・聴・香・味・触・心」の6つの感覚を癒すという造語で、「日本遺産認定の際に、地域の素材をひとつにまとめ、分かりやすいストーリー構築に繋がった」と三朝町観光交流課課長補佐の藤井紀好氏は話します。

その構成遺産である三徳山は、三仏寺を中心とした役行者ゆかりの霊場。とくに切り立った岩窟に張り付くように建つ奥の院の国宝「投入堂」の、驚愕の風景は、いつしか「日本一危ない国宝鑑賞」と言われるスポットに。春の新緑の季節や夏休みシーズン、秋の紅葉の季節など通年を通して多くの人が訪れます。

また三朝温泉は世界屈指のラドン含有量を誇るラジウム温泉。平安時代から湯治場として知られ、入浴のほか、熱気浴、飲泉など様々な用法があり、温泉療法を行う医療機関もあります。

訪問者は年間約34万人
今後は首都圏へのPRも

2018年に三朝町を訪れた観光客は、

国内外合わせ34万6000人。関西圏の訪問者が中心で、「旅行会社の団体旅行も重要な集客チャネル。個人客も年々増加しているが、知名度の点ではまだ訴求する余地は十分にある。鳥取空港から1時間ほどという交通面も含め、首都圏など東日本を中心にPRを行いたい」と藤井氏は意欲を示します。

また目覚ましいのが訪日外国人の増加で、2018年は約2万人と、2014年の約4000人から5年で5倍に増加しました。近隣アジア諸国が中心ですが、ヨーロッパ系の訪問客も1桁台から1800人に。藤井氏は「ホームページやインターネットを通しての口コミなどで広まったので」と推察します。

修験道や温泉は非日常を感じることを含め、体験型の観光素材としては非常にわかりやすく、神事や祭りなど伝統行事とも密接につながっています。今後は「情報発信が重要。情報発信ツールの整備をし、PR展開を行ってきたい」と藤井氏は語っています。



投入堂からの眺め



熱気浴も人気



バイオリン美術館も人気です